



発行所
財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人 関山 巧
定価 1部44円
題字 井戸知事

消えるまで
ゆっくり火の元
にらめっ子

平成二二年春の叙勲

県下から消防功勞により一六名が受章

平成二二年春の叙勲が四月二九日(昭和の日)に発令されました。消防関係の受章者は、全国で五六六名、うち兵庫県では、元消防団員・職員十六名が榮譽に輝きました。



春の叙勲伝達式

受章された方々は、永年にわたり国民の生命、身体及び財産を火災をはじめとする各種の災害から防護するとともに、消防力の強化・拡充に尽力し、社会公共の福祉の増進及び業界の発展に寄与した消防関係の方々です。

伝達式は、五月一八日(月)十一時から東京・虎ノ門の日本消防会館内ニッショーホールで執り行われ、総務大臣から各代表者に叙勲が伝達されました。

〈全国消防関係受章者数〉

- 瑞宝小綬章 四〇名
- 旭日双光章 二名
- 瑞宝双光章 一二一名
- 瑞宝单光章 四〇三名
- 計 五六六名

〈兵庫県下受章者(消防功勞)〉

◎瑞宝小綬章

- 元尼崎市 消防正監 堂本 嘉巳



◎瑞宝双光章

- 元村岡町消防団 団長 浅田 重男



元芦屋市消防団

- 団長 松浦 信行



元上郡町消防団

- 団長 村上 重之



元宝塚市消防団

- 団長 和田 哲也



◎瑞宝单光章

- 元神戸市西消防団 副団長 穴田 勝進



元豊岡市出石消防団

- 団長 石田 和正



元西宮市消防団

- 分団長 井上 義夫



元赤穂市消防団

- 分団長 大國 光男



元加古川市消防団

- 副団長 梶野登志次



元加西市消防団

- 分団長 片岡 和義



元佐用町消防団

- 副団長 小松 博之



元尼崎市消防団

- 分団長 中堂 健



元山崎町消防団

- 副団長 南光 正和



元相生市消防団

- 副団長 西田 清和



元関宮町消防団

- 団長 西垣 保巳



伝達式に参列された方々

北から南から

「わがまちの重要文化財」

神戸市北消防団大沢支団

神戸市の西北端に位置する大沢町は、三木市に隣接した戸数約三四〇戸の小さな農業のまちです。その中の市原という集落に、国指定の重要文化財の「豊歳(とよとし)神社」があります。室町時代の初期に、隣村の長尾村から六戸の農家が移り住んで開墾したことに始まります。その際、産土神(うぶすながみ)として長尾村の村神大歳神社の分祠大歳大神を、又本尊阿弥陀如来尊像を氏仏として奉戴し、阿弥陀堂に安置され、旧暦一月六日には御当(おとう)行事を仏式で行っていました。

その後室町の中頃、肥後の国、佐賀の浪士仲井市之丞守国が故あって当地に転居、彼はこの地を熱心に開墾し、また敬神の念も厚く、大いに鎮守神を崇敬しました。しかし社殿が狭小

た、平成一六年九月には覆屋の茅葺を銅板葺にして保存状態を強化し、貴重な文化遺産を後世に伝えんと保全に万全を期しています。建造物は棟札によると、永正八年(一五一一)一月に上棟、寄進者は紀守国、大工は南部の宝田宗行、小工は藤原定行と記されています。建物は一見社隅木入春日造で、間口四尺、奥行七尺二寸の小規模な社殿ですが、覆屋内にあるため保存状態は極めて良く、また後世改造の跡も少ないようです。建物は丹塗りで、組物、彫刻等に極彩色、羽目板等には彩画が施されています。庇や正面の意匠に特色があると同時に、細部に至るまで完存しており、室町時代後期の様式をうかがうことのできる遺構として貴重な財産です。

消防団では、この財産を守るため、定期的に消火装置の点検を行い、一月二六日の文化財防火デーには消火訓練も行っており、大切な文化財の保全に努めています。



豊歳神社



「若手消防団員として」

小野市消防団 東分団班長

岡嶋 良和



私の所属する小野市消防団東分団特設部は、小田町という市の北東部に位置し、中心には東条川が流れ田畑や森林に囲まれた穏やかな風土の町を管轄しております。

私の父の時代の消防団は、営業等、管轄内で仕事をしておられる方が多く、いざという時

には迅速な活動が行えていたという話を聞きます。

しかし、サラリーマン化した現在では市外へ勤務されている団員が不在となります。そんな時火災や水害等が発生した場合、召集をかけても迅速に集まることは不可能な状態となっております。

また、少子化に伴う団員の減少と、高齢化も年を追うごとに加速してきています。

このような状況を踏まえ、今後の我々の活動はどうあるべきなのかと思うことが多々あります。とはいえネガティブな考えでは良い方向に向かうわけはありませんのでポジティブに考えて行きたいと思っています。

例えば団員OBの方々の協力

を得る等、自主防災組織の方々の連携をさらに強化し、有事の際に団員が不在であっても迅速に対処できる方法を模索し、住民の方々が安心して生活を送れる状況を作ることがあります。そのためには住民にもっと消防団に対する理解を深めていただく必要があります。そこで消防団を住民の方々にもっとアピールしていかなければならないか分らないという方が大半であると思いました。

まず手始めに二年前ですが、毎年秋に開催される地区の体育祭の一部分として我々特設部がポンプ操作を披露しましたところ、水の出し方がこんなにスムーズに行えるのかという感想や、消防団OBは操作を見て懐

かしさを味わった等、夏の暑い時期に操法練習を一生懸命やってよかったなという充実感と達成感を味わうことができました。そして、これを皮切りに、昨年五月市の操法大会で初の優勝という栄冠も味わうことができました。このことをきっかけに町との関わりが一層深まり、消防団に対する理解も以前よりは深まったと自負しております。

最後に「自分たちの町は自分たちで守る」をモットーに、これからもアクションを起こし、積極的に住民の方々と関わって行き、互いに理解し合い良い方向に向かっていくよう努力をしていきたいと思います。

われら若手消防団員

〈18〉

消防団に入団して

淡路市消防団

岩屋地区第一分団

小濃 良正



私が消防団に入団したきっかけは、市役所に勤務していること、また、現在地元の自治会で役員をしていることもあり、他の若手住民と比較して地域に明るいであろうことから地元消防団員の方から熱心な勧誘を受け、入団を決意しました。

私が所属している岩屋地区第一分団は、管轄地域が住宅密集地であり、また、古い家屋も多

いことから、建物火災などの際には類焼の危険性を常に抱えているため、非常に迅速かつ適切な消火活動が求められます。このような地域事情の中、現場や月例訓練などで先輩方の指導を仰ぎながら、日々、経験値を蓄えている状況です。

消防団の活動は、ほぼボランティアといっても過言ではなく、「奉仕の精神」を持っている者でないとならないのではあります。有事の際には、昼夜を問わず出勤をしなければならぬので、先輩方の消防や防災に対して取り組む姿勢には、本当に頭が下がります。私にも今後、多くの先輩ができることになると思いますが、私が今、先輩方に対して抱えている思いと同じような気持ちになってもいいかなと思っています。

消防団に入団し、消防防災活動以外の点で特に感じていることは、縦の世代間交流ができることということです。昨今、この地域においても、地域コミュニティの欠乏が問題となっており、ですが、反省会などでさまざまな世代の方々と時にはお酒を飲みながら、談笑や色々な情報交換ができる場があるという事は

非常に重要な機会を得られているのではないかと感じています。この機会を大切に、一層地域のみならずと交流を深めていければと思っています。

これから、色々と困難な現場を経験していくことになると思いますが、先輩方とともに地域の安全を守っていきけるよう頑張っていきたいと思っています。

みんなで入ろう互助年金

消防互助年金



安全・確実・安心です!

老後の生活 安定のために!

【消防の仲間が支える互助年金】

人生80年時代! 老後の準備は怠れません
消防関係者一人ひとりの老後を充実させます

- ・会議などの際、お呼びいただければ(財)日本消防商会の職員が説明に伺います
- ・費用は無料ですし、些少ですが会議費を助成致します
- ・消防互助年金制度説明用ビデオの貸し出しをしております

老後は良くしましょう
問い合わせはフリーダイヤル 0120-658-494

「私の消防今昔話」

丹波市消防団
筆頭副団長
谷口 政則



消防団に入団して早もう三〇年が経ちます。二〇歳の時、地元消防団の部長さんに、今年の年末警戒から、消防団に入ってくれないかと誘いがありました

た。まだまだ遊びたい盛りには消防活動なんかと思つたのは本音です。

家へ帰ると、ハッピ、ヘルメット、長靴が置いてあり、父親から、「お前も一人前に認められたいや。先輩団員に可愛いがつてもらいや。」と言われ「ああ」と無愛想な返事をしたのを覚えています。

その年の年末警戒から消防活動に参加する事になりました。その頃の丹波の里はけつこう雪が降り積もり、長靴が埋まるほどの雪の中を鐘を振りながら歩いて警戒するのです。寒さで手足が冷え早く帰りたいと思いな

がら警戒してました。詰所に戻ると、「お疲れ、早う暖まり」と先輩達が優しく言ってくれました。詰所と言ってもボロボロでガラスは割れて、隙間風が入りひどい所でした。明方の三時まで警戒するのですが、その間先輩団員からいろいろな話を聞き、感銘する事もありました。

その後、私も、建物火災や山火事、水防活動など、いろいろな災害に出動しました。筒先を持って火の中へ入った事も有り、又ある時は遺体を毛布にくるんで外へ出した事も有りしました。今、筆頭副団長の職に就いて思う事は、今と昔は変わった

極めました。真っ赤に燃え広がる山々を見上げ、道なき道にホースを展長し、全団員で悪戦苦闘しながらひたすら消火活動に専念するのみでした。団員一人ひとりが使命感と誇りをもって活動し、ようやく鎮火したのですが、皮肉にも翌週、同じ場所です。あたり一面が焼け野原のようでした。

消防団今昔 58

「風光明媚なわが町を守る」

安富町消防団長
梅田 善幸



「花とホテルのまち」姫路市安富町は、姫路市の北西部に位置します。

町の東西を中国自動車道が走り、国道二九号線が管内の南部を走っています。交通の便に恵まれ、京阪神や近隣都市へのアクセスの良さからベッタタウンとして人口増加が続いています。

安富町には、巨大な岩盤の上に長い年月の間に水の浸食作用で出来た大小の甌穴（おうけつ）がめずらしい名勝「鹿ヶ壺」があり、ハイキングコースなど

も整備され、キャンプ、バーベキューが楽しめる人気のアウトドアスポットがあります。また、安志加茂神社境内には地域の花のあじさい約三〇〇〇本が植えられ、六月中旬から住民はもちらん、遠来よりの観光客の目を薄紫の美しい花々が楽しませて

安富町消防団は、昭和三二年七月一日、安師村と富栖村が合併し安富町となり、団員数四三〇人、一五分団で発足し、消防ポンプ自動車一台、可搬ポンプ二台、手引ポンプ一〇台の資機材が整備されてきました。

私は、昭和四四年に入団し、幾多の災害に出動してきましたが、班長当時に発生した山火事が今でも印象に残っており、町のほとんどが山々に囲まれた我が町は、一度火災が発生すると瞬く間に山々を飲み込むほどの勢いで燃え広がります。現在のように消防車両等が整備

を止めることは、非常に困難を

が、心は一つ頑張ります。



再編を控え、団員定数は減少となりませんが、山崎断層帯を抱えるわが町は、市民の生命、身体、財産を守る使命を担っている消防団として、数々の訓練に取り組み団員一人ひとりがリーダーシップを執り、市民の大きな期待に応えられるよう精進していきます

二度とこのような惨禍は起こしたくない。防火防災の意識をもつて全団員でこの痛ましい山火災を教訓に訓練を実施しました。その山林は、私の住まいの近くで、今ではその後には植林をしたヒノキが大きく育っています。

見上げるたびに思い出します。山林火災の恐ろしさ、消火の大変さを。

平成一八年に、姫路市と安富町の合併により、「姫路市安富町消防団」（一五分団、定員二五二人）として新たなスタートをきり、平成二二年には分団

地区通信

大規模火災消火訓練

伊丹市総合防災訓練

伊丹市消防団

平成二二年一月一八日、「伊丹市総合防災訓練」が大府町の県境を流れる猪名川左岸河川敷をメイン会場として、伊丹市災害対策各部、自衛隊、警察等の防災関係機関、医療関係者、ライフライン各社、自主防災会、市民団体等の訓練参加人員五二〇名、参観人員一〇〇〇名のもと行われました。

伊丹市消防団は、常備消防隊、隣接他市常備消防隊とともに地震により発生した大規模火災の消火訓練に参加し、猪名川より自然水利を取り、他の消防隊と連携・中継を行い、訓練会場に設置された倒壊ビル、家屋に対し消火放水を実施。

今年度の訓練は、兵庫県南東部を震源とする直下型地震が発生したとの想定で、本市においては震度六強を観測し、市内各地でビル・家屋の倒壊やライフラインの途絶、車両事故が多発し、伊丹市地域防災計画に基づき、災害対策本部が設置され、防災関係各機関により災害応急対応訓練が実施されました。

多数の関係者、市民が参観する緊張の中、日頃の訓練を發揮すべく分団長の指揮のもと、出動し水利部署、ホース延長、ポンプ操作、火点注水を迅速に行い、消火訓練を実施しました。

本市消防団は、明治四二年「伊丹消防組」として発足し、昭和二三年「伊丹市消防団」として自治体消防体制となり、現在は、岸谷消防団長以下、一本部六分団九三名で地域に密着した防火

防災活動を展開しています。地域における春・秋の火災予防週間中のパトロールや、出水期における水防工法訓練、年末特別警戒、日頃のポンプ操作訓練、AEDを含めた救急蘇生法の訓練など地域防災の要として活発に活動しています。

が、心は一つ頑張ります。



伊丹市総合防災訓練

地 区 通 信

「積極果敢な消防活動を」
佐用町消防出初式

佐用町消防団

佐用町消防団は、旧佐用郡四町（佐用町・上月町・南光町・三日月町）の消防団が統合され、平成一八年四月一日新たに発足しました。分団数が五五、団員数一一五五名、消防車両六九台を有する大所帯となりましたが、旧町ごとに支団長（専任副団長）を配し管轄エリアを分割することに、効率性を高めています。

本年度は、四月五日に南光スポーツ公園第二グラウンドにおいて佐用町消防出初式を開催しました。前日の雨も上がり、満開の桜の下、西播磨県民局長を始め多数のご来賓に参加いただき、隊

列行進・団旗入場など厳粛に開会いたしました。最初に、本年四月からの新しく幹部となった団員（副団長及び分団長）全員に、松田消防団長から辞令が手渡されました。式典では、町長から「消防団と消防署が常に連携を図り、今後益々の消防防災活動を期待します」との式辞の後、団長より「私たち消防団が町民の生命と財産を守るために、より一層団結した活動を期待する」との訓示がありました。

続いて、本年度四九名の新人団員を代表し、佐用第一機動分団の保井団員に辞令交付を行った後、保井団員が「先輩諸氏の

教えを守り、積極果敢な消防防災活動をすることを誓います」と力強く宣誓しました。

消防団員の心得を七つにまとめた「消防団員信条」を朗読した後、各種表彰状の授与が行われました。

消防庁長官表彰・兵庫県知事表彰・日本消防協会会長表彰・兵庫県消防協会会長表彰・町長表彰・団長表彰など、総勢一五六名が表彰の栄誉を受けました。

次に、三〇年以上の長きにわたり消防団員として活動した本年三月末の退団者に、町長から感謝状が渡されました。

式典の最後を飾るアトラクションとして、ポンプ自動車九台による一斉放水が行われました。

見学者は「力強い放水を見せてもらった。これからも私達の生活を守って頂きたい」と語っていました。



力強い新入団員宣誓



団旗に注目！

編集後記

吹く風も心地よい好季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、今月号では、一面にて、平成二一年春の叙勲を掲載しております。また消防団今昔には安富町消防団団長梅田善幸さん、丹波市消防団筆頭副団長谷口政則さんより寄稿いただきました。厚くお礼申し上げます。なお、今年度の「兵庫消防」の編集は前任の谷に代わり、新しく山本が担当になりました。よろしくお祈り致します。

「こんにちは！ひょうごの消防団です」

<http://www.hyogoshoubou.jp/>



吉谷式消防ポンプ自動車

営業品目

- | | |
|---------------|---------------|
| 屈折梯子付消防ポンプ自動車 | 消防救助工作車 |
| 化学消防ポンプ自動車 | 小型ポンプ積載車 |
| 水槽付消防ポンプ自動車 | シバウラ小型動力消防ポンプ |
| 普通型消防ポンプ自動車 | 各種消防用品 |
| 高発泡機付消防自動車 | 消防用ホース |

株式会社 吉谷機械製作所

本社・工場 鳥取市古海356の1
TEL(0857)23-2211(代)
FAX(0857)27-1766

美と力を備えた
新しいテクノロジーが
社会と暮らしを守り続けます。

安心を科学する
モリタです。

株式会社モリタ

本社 〒544-0003大阪生野区小路東5丁目5番20号
TEL06(6756)0119 FAX06(6754)3473
東京・大阪・名古屋・仙台・福岡・富山・松山



兵庫県知事選挙

投票日 7月5日(日)

投票時間 午前7時～午後8時 (一部の地域を除く)

投票日当日、仕事、買い物、レジャーなどの予定がある方は、**期日前投票**をすることができます。
手続きはカンタンです(理由に○をつけるだけ)。

【期日前投票のできる期間】

6月19日(金)～7月4日(土)

※体のご不自由な方は、付き添いの方と一緒に投票所に入ることができます。

※投票所入場券がなくても、本人であることが確認できれば投票することができます。

詳しくは、住所地等の市区町選挙管理委員会へお問い合わせ下さい。

みなさんそろって投票しましょう！！